



Q1 胃カメラと胃透視の違いは何ですか

	カメラ	透視
長所	消化管の状態を直接カラーで観察できる。 その場で、組織採取や色素検査が可能 (カメラの種類や服用薬により、できないこともあります)。	胃全体の形や動きがよくわかる。 身体への侵襲が比較的軽い。
欠点	カメラ挿入時に喉の不快感や検査中の苦痛を感じる場合がある(特に、嚥下反射が強い方)。	精査が必要と判断されれば、後日胃カメラ検査が必要となる。 バリウムが飲みにくい。 検査後の便秘に注意。 レントゲン被ばくがある。

Q2 胃カメラは口からと鼻からではどちらが楽ですか

一般的には鼻カメラの方が楽だと言われますが、個人差もあります。
大きな違いは、カメラの太さが鼻の場合は口カメラの約半分となります。
そのため、口カメラは、見える視野が広く、画像も鮮明でより精密な観察が行えます。また、必要時は食道がん早期発見に役立つ NBI (狭帯域光観察) での観察を行います。
鼻カメラは、嘔吐反射の原因となる舌根を通過しないので、反射を軽く抑えることができます。
ただし、鼻腔が狭い方や鼻中隔の変形がある方は挿入時に抵抗を生じ、苦痛とを感じる場合もあります。
また、鼻粘膜の弱い方は鼻出血を伴う場合があります。
最終的に鼻からの挿入ができない場合は、口カメラへ変更となります。

Q3 胃カメラ検査時に鎮静剤は使用してもらえますか

ドックに際しては、さまざまな検査が実施されますので、意識状態に影響を与える可能性のある薬剤の投与は行っておりません。

Q4 受診当日に胃カメラの種類を変更することは可能ですか

可能な限り対応させていただきますが、予約枠もございますのでご希望に沿えない場合もございます。
変更希望がある際は、事前のご相談をお願いいたします。

Q5 血液をサラサラにする薬（抗凝固薬/抗血小板薬）を飲んでいると、カメラは受けられませんか

胃カメラをすることは可能ですが、組織検査（生検）はできません。

ただし、事前に休薬できる場合は、生検が可能ですので、まずは、薬を処方されている医師に、休薬可能か確認してください（当院で処方中の方も、ご自身で担当医への確認をお願いいたします）。

自己判断での休薬は絶対にしないでください。

薬剤により休薬期間が異なりますので、日数については当院までお問い合わせください。

なお、休薬が不可な場合（当院規定の休薬期間を満たさない場合も含む）は、安全性に配慮して口カメラでの実施となります。

※ 組織検査（生検）は、カメラ検査中に医師が必要と判断した際にのみ実施するものです。

Q6 1日に放射線検査をいろいろ受けても被ばくの心配はありませんか

一般的に 200 ミリシーベルトの放射線を浴びると、人体への影響が出てくると言われていますが、自然発生するガンや白血病よりも、この量を超えるあたりからわずかに増加する程度です（白血病の場合 0.001%の増加）。また、放射線は日常の生活の中でも受けています。

- ★ 胸部レントゲン……………0.06 ミリシーベルト
- ★ 胸部 CT……………6.9 ミリシーベルト
- ★ マンモグラフィ……………1.99 ミリシーベルト
- ★ 1人当たりの年間自然放射線……………2.4 ミリシーベルト（世界平均）

一般的な健診では、身体への影響を心配する必要はありません。

Q7 風邪を引いてしまいましたが、ドック受診は可能ですか

ドック終了まで時間を要しますので、体調によっては日程変更をおすすめします。

また、風邪の症状により、一部検査に異常がみられる可能性もございます。

ノドの炎症が強い場合や咳が激しい場合は、胃カメラの挿入が困難であったり、まれではありますが、喉頭痙攣を起こすことがありますので、おすすめできません。

健診ですので、本来は通常の体調時に受診されることをおすすめします。

受診予定日の 2 週間～1 ヶ月前に当院ドックセンターより案内の封書を送付しております。

当日の注意事項や持参して頂くものなどの記載がございますのでご参照ください。

上記 Q&A につきましては、2019 年 1 月現在のものですので、変更が生じている場合があることもご了承ください。

お問い合わせやご予約時、事前送付書類にて最新のものをご案内させていただきます。